

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議です。

地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

地球温暖化防止活動では、地球温暖化防止活動推進員の活動や省エネ講座の開催、環境フェスティバルへの参加、八王子FMの番組出演などで成果を上げることが出来ましたが、頻発する異常気象などを考慮すると、一層の啓発活動が必要です。

河川では、イベントや調査活動などで希少種のホトケドジョウやヨシノボリの卵、モクズガニなどの豊かな生態系が確認されていますが、オヤニラミなどの数年前まではあまり見かけなかった魚も捕獲され、生態系の変化が気になるところです。

河川の清掃では、多くの会員が参加して浅川のクリーン化に努めていますが、依然としてプラスチック系のごみが多く回収されるため、引き続き地道な活動が必要です。

まちのみどりの保全活動では、街路樹の植樹などを提案しましたが、更なる活動が必要です。

新たな視点として、環境問題を広く捉える活動、「環境フォトコンテスト展」を開催しましたが、今後も新しい発想の取組が必要と考えます。

■ 中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

地球温暖化防止活動推進員として、中央地区から7名が参加し、家庭グループと調査・分析グループのリーダーを務めました。

年間を通して、「家庭の省エネ講座」の講師を推薦するとともに講座を実施し、今の環境問題や市民が自らできる省エネ行動を説明しました。

また、八王子FMの番組では、推進員が交代で出演し、地球温暖化の問題や、省エネ行動の具体的な方法について話をしました。

5月にはゴーヤの苗作りを行い、6月の環境フェスティバルでクイズの景品として配布しました。



八王子FMの収録

2 ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月の春のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょう祭りで「環境コーナー」を設け、クイズを通して正しいごみの分別を説明しました。そして、クイズの景品として生ごみから作った堆肥を配布し、家庭での生ごみの堆肥化についてアピールしました。

エコひろばでは「もったいない委員会」に参加し、「あったかホールまつり」などのイベントを支援するとともに、ダンボールコンポスト事業では生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。



大和田市民センターまつり

3 河川の清掃活動

浅川を年3回（4月、6月、11月）計画し、河川巡回観察で清掃場所を見定め、河川敷や水際を中心に活動しました。

また、浅川での自然体験講座、ウグイ放流のイベントや水生生物などの調査活動の際に、会場周辺の水中や河川敷のごみ収集を積極的行いました。

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

浅川の巡回観察を実施し、会員に内容を報告するとともに、必要に応じて管理者に実状を報告しました。

6月に、身近な水環境の全国一斉調査に参加し、浅川大橋下と鶴巻橋下の地点で水質調査を行いました。水質はきれいな水のレベルでした。

4月と8月に、生息環境・季節的要因を把握して環境教育資料に供するため、浅川大橋下で水生生物調査を行いました。

10月に、萩原橋上流の湧水溜りと平岡排水口部湧水水路の流量・水質調査を行いました。11月には川口川ワンドの水生生物と水質・湧水流量調査を行いました。



河川クリーン活動



ワンドの水生生物・水質・湧水量調査

5 環境教育・環境学習などの推進

9月に自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を実施し、親子合わせて37名が参加しました。当日は、水生生物捕獲・ボート遊び・魚釣りをを行い、大変好評でした。特に魚釣りは順番待ちが出るほどでした。また、中央地区の小学校5校への環境教育の支援活動にスタッフとして11回参加し、会員延べ42名が参加しました。



浅川ふしぎ探検

八王子浅川水辺の楽校運営協議会への協力として、5・6・7月にアユ（1回）、ウグイ（4回）の放流イベントにスタッフとして会員延べ11名が参加しました。また、5月の桑都ライオンズクラブ「川で遊ぼう」、7月の「ガサガサ探検隊」、9月の水辺の環境教室には、スタッフとして延べ13名が参加しました。

6 まちのみどりの保全

- (1) まちのみどりの保全啓発を目的としたまちなかウォッチング（自然体験講座）「秋の小宮公園」を11月に開催し、参加者17名が桑並木通り、街並み、街路樹をウォッチングしたほか、小宮公園で樹木や山野草、鳥類を観察しました。
- (2) 市内の街路樹を示したグリーンマップを環境フェスティバルや市民センターまつりなどで約1,000部配布し、まちのみどりなどを周知しました。
- (3) 6月に、地区内の幹線道路などにおいて大気汚染測定を行いました。
- (4) 甲州街道の、街路樹の無いところに対して植樹を提案しました。

■ 特色のある取組

中央地区環境市民会議のごみ・資源・エネルギー部会、かわ部会、まち部会のメンバーが中心となり、自分たちの活動を写真で表現し環境問題を訴える写真展を開催しました。30年度は約100名の来場者に楽しんでいただきました。

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東エリアは住宅地が開発されています。その中に、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西エリアは南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央を谷地川が流れ、上流では従来からの自然護岸が残っています。

一方、交通面では、国道16号、16号バイパス、国道20号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央自動車道八王子ICの他に圏央道あきる野ICも近くに建設され、交通の要衝となっています。このような状況の中で、以下の課題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・ 谷地川上流部での水質・水量の改善
- ・ 加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地が存在
- ・ 生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・ 環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・ 小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・ 地域内の幹線道路の大気汚染の状況は横ばいである

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点（6月のみ8地点）を対象に、COD（パックス）、水温、pH、電気伝導度、溶存酸素量を2か月ごとに、河川流量を季節ごとに定点観測し、生物調査を1回実施しています。全国一斉水質調査が6月3日に実施され、調査開始以来15年継続参加しています。川の清掃活動は、引き続き実施します。



谷地川での水生生物調査

2 緑地保全活動

緑豊かな北部地区では他の活動団体との協働で、市内の都有地・市有地で緑の保全・整備を主体とした活動を実施しています。

大谷緑地保全地域では年24回、暁町緑地保全地域・中野山王緑地・戸吹北緑地保全地域・滝山城跡はともに年12回、栗の須緑地は年6回、大和田緑地は年4回の活動を行っています。

雑木林は萌芽更新を主体に行い、竹林は、周囲に竹が侵食しないように竹林内の繁茂を防ぎ、見通しの良い明るい林になるように間伐・除伐および下草刈りなどを行い、里山（雑木林・竹林）の保全に取り組んでいます。



緑地保全活動

東京都緑地保全地域、市緑地や斜面緑地ともそれぞれ周囲に一般家庭の住宅が増えて来たこともあり、間伐・除伐に気を配り、きれいな緑地にすることに貢献しています。

3 環境教育・環境学習などの推進

市内の他団体とともに、小宮小学校4年生を対象に、多摩川での自然を学ぶ授業を支援しています。環境教育として体系的なプログラムであり、小学生には非常に有効です。延べ4回実施し、最終的に環境学習活動の概要を示すパネルを作成しました。大和田小、第八小、緑が丘小、渋谷区の

代々木山谷小に対しては、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ場として活動を実施しました。小学生の自然体験は、楽しみながら自然を体験し学ぶ場になっています。大学生に対しては、東京グリーンキャンパスプログラムとして、首都大学東京の学生に対して春と秋の年2回、また、企業に対しては、東京グリーンシップアクションとして、5社に対して延べ6回にわたり緑地整備の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。また、都主催の「里山へGO!」にも協力参加するとともに、近隣住民との関連を重視し、知っていただくことを趣旨に、里山で子供向けのプログラムを初めて実施しました。



緑地整備体験

4 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に二酸化窒素濃度調査を実施しました。31か所の定点調査で、年2回（6月、12月）の都内一斉調査日に実施しています。6月は過去との大きな変化はありませんでしたが、12月は昨年、一昨年よりも高い濃度でした。測定時の風速が無風状態（1.5m/sec）に近く、大気の停滞により二酸化窒素も滞留したようです。地区を通る16号バイパスでは、やや高い濃度の測定値が継続しています。

5 地域との協働活動の推進

環境市民会議の知名度をアップするために、石川・加住市民センターで市民会議活動状況のパネル展示、近隣子供会向けの里山探検隊開催、ダンボールコンポスト講習会での活動紹介等を行いました。これらの活動では、新たに作成した「環境マップ（改訂版 30年6月）」を配布するとともに、市役所、エコひろば、市民センターに常設し、市民会議の活動と、北部地区にある環境資産を知ってもらえるよう努めるとともに会員募集を行いました。



市民センターでの活動

■ 特色のある取組

1 環境フェスティバルへの参加

地区内の活動を紹介するパネル展示と、谷地川で捕獲したカワムツやホトケドジョウ、ヤゴ、エビやアメリカザリガニなどを水槽に入れた展示は子どもたちの興味を引くことができました。オイランソウ・アサガオ・青ジソなどの草花苗の配布も好評でした。また、自分で選んだ野草の押し花をパウチングする葉づくり体験は、子どもに人気がありました。

2 環境パネル展への参加

北部地区の環境マップと活動状況の写真を、大きなパネルにして展示するとともに、説明員として参加しました。

3 自然体験講座の実施

年2回、当地区にある自然と歴史の資産である滝山城跡と高月の田園風景を紹介するための散策会を実施しました。秋季の滝山城跡は歴史を主眼に、春季の高月田園風景は季節感・自然を体感する講座です。



自然体験講座（滝山城跡）

4 スキルアップのための施設見学の実施

企業の製造プロセスを見学し、工場の省エネ、衛生面への配慮等の説明を受け、臭気試験等を体験しました。

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、八王子市の西部地域に位置し、広い山間地・丘陵部を有しています。

浅川の源流である川口川・北浅川・城山川などを中心として緑豊かな景観を成し、多様な生態系が見られます。そのような中で、近年、各河川や支流で降雨状況の影響が周辺の保水力の低下か、水量の減少傾向が見られることが気になります。

郷土の川の景観維持のため、年数回の清掃活動を継続実施し、ゴミの除去や外来植物の刈取りを行っています。

地域の大気汚染状況を調べるためのNO₂測定も定例化に戻し、観測点を再度見直しつつ変化を確認しています。（幹線道路網の新設・拡張などによる汚染の変化のチェック）

小学校の環境学習支援（川の学習、ダンボールコンポスト）も継続して取り組んでいます。

■ 西部地区の主な取組

1 大沢川・城山川クリーン活動

大沢川と城山川で年4回のクリーン活動を行い、川の周辺の景観を維持するための活動を行っています。（30年末で50回目）

ゴミの量は毎回同じくらい回収されており（可燃ゴミ10袋以上にペットボトル・缶・ビン等の資源ゴミ）、多量になるので戸吹清掃事業所の協力を得て移送しています。



城山川クリーン活動・ゴミの分別

2 特定外来植物の駆除

大沢川と城山川にみられる、特定外来植物のアレチウリや要注意外来植物（オオブタクサ・セイタカアワダチソウ・黄ショウブ等）の刈込を、秋のクリーン活動時に実施しています。年により増減するものもありますが、川の形状により刈り取れない部分も生じることがあります。

近年は在来種の「くず」や「よし」も一面に絨毯状に茂る箇所が発生しており、警戒しています。

3 河川・湧水の水質調査

川の水質調査は年2回、13地点で実施しています。

「水環境の全国一斉調査」（水とみどりの研究会主催）に参加し、測定値を報告しています。

湧水の水質調査は災害時の緊急用水としての確認のため、年1回、梅雨明け時に行っています。

河川・湧水とも水量が少ない状態が続いており、大沢川の一部では瀬切れが生じて測定できない箇所もありますが、COD値は平均して2～4と良好に続いています。



城山川での水質調査

4 大気汚染の測定活動

西部地区には鉄道がなく、主に道路網の整備による物流・人の移動が行われていますが、丘陵地と里山の組み合わせから、産業や生活による大気汚染が起こりやすい地形にあります。

30年度は15箇所で測定しましたが、令和元年度は川口・恩方・元八王子地区の観測点を見直し、更に継続して計測していきたいと考えています。

5 環境教育支援事業の実施

(1) 環境教育支援

小学校での総合学習の一環として、自然を体験する学習（主に川の学習）を支援しています。

30年度は小学校13校で延べ27回の支援を行いました。（内、西部地区5校、参加児童延べ1,928人）

都の「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」である横川小学校には、1年生から5年生に8回の支援を行いました。活動支援は保護者の協力も得て、無事に実施することができました。



川の学習の様子

(2) ダンボールコンポスト支援（貳分方小学校）

貳分方小学校では、環境教育対象の4年生が参加し、ゴミに対する意識（生ごみの減量とたい肥化再利用）を向上させるための学習を行っています。

西部地区の会員も、4週間にわたり毎朝児童が自宅から持参した生ごみを投入・攪拌・記録する実技指導に参加しています。30年度で6年目になりますが、作られた「たい肥」は野菜作りや花壇づくりに活用されています。

- ・児童参加数 76人 ・ダンボールコンポスト 14個
- ・生ゴミ投入後 減らした生ゴミ重量 80Kg
- ・支援会員数 29日間 延べ66名



ダンボールコンポストの
たい肥づくり（貳分方小学校）

■ 特色のある取組

(1) 自然体験講座

西部地区は広い地域性と恵まれた自然環境から、毎回コースを変えて自然体験講座を実施しています。市民の参加者も多く、各回30名以上の方が参加しています。

- ・11月「下恩方の山裾を歩く」小田野中央公園発
- ・3月「早春の里山散策」上川の里廻り



自然体験講座「早春の里山散策」

(2) 高尾街道に「水仙の花」を・・・

高尾街道は、高尾駅から四谷地区まで拡張整備され、来年度は松枝橋も架け替え拡張されます。春の芽生えの先頭に「水仙の花」をと、6年前から花壇に植え込みを始め、元八1丁目交番前から左右歩道の花壇、全長50mまで達しました。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山には年間300万人の来訪者があり、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当会では自然観察会・環境パトロールを行い、植生、生き物、景観、周辺の案内板などの変化を記録しています。今後は所管の保全関係者と、現場でも情報交換の機会をつくり、意義ある調査活動にしていきます。

湯殿川においては、水質の改善、生き物の復活などの良好な面と、川中での粗大ごみやプラスチックごみの多さといった残念な面があります。河川の清掃から始め、周辺の歴史・史跡の探索、水辺環境の調査・提案など、流域の良さや問題点を、自然体験講座を開催する中で市民にも周知できたことは大きく、この事例は今後、南浅川にも展開できると考えています。

30年度の環境教育支援活動は5校7学級となり、校数の復帰と共に、支援内容、支援体制の強化を図るため、環境教育支援部会を発足させました。いちょう祭りは参加高校が1校増え、学生、事業者、市民と協力しクリーンな祭りに貢献しています。その他に地域センター祭りや、30年度は陵南公園開園50周年事業や高尾小仏植樹祭などの地域のイベントへの参加もあったので、これからも継続性を重視すると共に、新規なものにも関心を持ち取り組みます。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

高尾山は多様な動植物が生息する貴重な山です。この固有の生態系を保持し続ける事が大切です。年4回の観察・パトロールの記録を、高尾山の自然保全に関わる高尾山レンジャーや多摩管理事務所へ提供して情報共有を図り、一層の保全に努めています。

また、高尾山の保全の一環として、来訪者の一極集中を拡散するため、周辺の山稜への案内板・道標を提案してきました。その中の一つとして、梅の木平（南山稜入口）に設置が実現しました。

2 地域の宝の掘り起こし

（1）自然体験講座「湯殿川とその周辺の歴史散策」（10月）

一般23名、スタッフ13名の参加でした。湯殿川上流部にあたる湯島橋から新田中橋間周辺の神社仏閣を散策し、水質の改善、蛍の復活、環境教育支援などの活動を説明しました。

特に、千年余の歴史を持ち、湯殿川の名前の由来にもなった龍見寺の大日如来を拝観しての湯殿川の散策は好評でした。



湯殿川周辺の龍見寺境内

（2）地域の宝の掘り起こしをエコミュージアムマップにまとめ、これを種々のイベントの機会に配布して市民の関心を促進してきました。しかし、年々の道路建設、宅地開発、地権者の高齢化による田畑の放置化などにより、コースの見直しを余儀なくされ、改訂のための観察・パトロールを実施してきました。

市民に、自然に親しんでもらえるように、野草観察会（2回）ホタル観察会（1回）、野鳥観察会（1回）、水辺の生き物調査（イベントを含め年4回）を関連団体と協力し実施しました。



南浅川の野鳥観察会

3 里山の保全活動

地域内の里山新発見の調査を終了し、記録として保存しました。今後は、既存の関係する里山

“池の沢”の活動に集中し、散策マップを作成していきます。

4 親しみのある水辺環境の構築

(1) 河川の水質検査（全国一斉水質調査）：6月に地区内8河川の21か所で測定しました。

測定結果はCOD=1.05（平均値）で、全体的に昨年より低い値を示しました。

(2) 湯殿川、南浅川の清掃

ア 湯殿川の清掃は30年度で6年目、5月に14名が参加し実施しました。これまでに自転車を計10台回収、今回はオートバイのエンジンを回収しました。減らない大型ごみには、対策が必要です。

イ 南浅川の清掃は、2月、渇水期に、小学校の環境教育現場でもある古道橋から東横山橋の区間で実施し、13名が参加しました。川原・川床にはプラスチックごみが多く、ボランティア袋27袋を回収しました。



南浅川の清掃（収集ごみ）

(3) 水辺環境調査

湯殿川は昨年調査した問題点を、浅川流域連絡会を通じて南多摩西部建設事務所に提出し、遊歩道の植栽管理、親水公園の草刈作業の見直しなどについての回答書を得ました。

南浅川の調査には、5月に7名が参加し、古道橋から五月橋の流域を歩き、水辺階段などの現状を調査しました。令和元年度も継続調査し、具体的な提案を検討します。

5 生活環境保全

大気汚染NO₂調査について、定例測定を6、12月に32か所、更に高尾大型商業施設開店に伴う汚染調査として土、日曜日に追加測定しました。6月の測定結果は全体的に29年度より低い値を示し、12月は全体的に高く、特に町田街道・高専通りT字路の高い値は大型商業施設の影響と考えられます。曜日を変えた測定値は、定例の測定値と差はありませんでした。

6 環境教育支援

地区内の支援校は29年度3校から30年度5校に増加し、5校6学年（429名）を支援者数延べ66名で実施しました。緑が丘小、桐田小、横山第二小、東浅川小の4年生と、東浅川小の5年生には、近くの河川で自然環境、生き物、植物の採取体験や自ら興味ある課題を見つけ取り組む「課題別体験学習」を各校2回ずつ実施し、発表会も行われました。浅川小の3年生は、学校近くの「初沢山調査」で歴史的成り立ちを学びました。

7 地域の環境活動との連携

いちよう祭りにおいて「ごみ分別指導」を行いました。30年度も11月に大会19名が参加し、高校生、大学生を指導し祭りのごみ分別に取り組みました。桑志高校、富士森高校、新たに八王子東高校が加わり、大学生を含め約320名が参加しました。1年生が全員参加する桑志高校では事前説明会を開き、ごみ総合相談センターが市のごみの現状について、当会は祭りでのごみの分別について説明しました。高校生に資源プラスチックの分別に注意するよう指導し、更にプラスチックの環境汚染問題を提起しました。

■ 特色ある取組

8月の「わたしのまちの水辺調査」（参加者28名）に大会8名が支援参加、9月の「高尾小仏植樹祭」の4千本植樹に6名参加、10月の都立陵南公園開園50周年を記念した「こもれびピクニック」に10名が支援参加し、パネル及び水槽展示を行いました。



陵南公園（開園50周年）

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部地区のみどりは、周辺地域の開発により減少しています。さらに、手入れの行き届かない里山も見受けられます。

河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行うとCOD値は「きれい」という基準値の1～2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られますので、一層の清掃活動と啓発活動が続ける必要があります。

年2回、6駅周辺のごみを種類ごとに数えることにより「きれいさ評価」を行っています。たばこの吸い殻のポイ捨ては気になるものの、たばこの吸い殻を含めたごみ全体としては非常に減少しており、街全体としては年々非常にきれいになっています。

東京一斉NO₂測定に年2回参加し、大気汚染の状況を継続して測定していますが、16号バイパスの通行料無料化によって車の通行量が増えているので、今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にして街の美化、河川の美化に努めていきたいと思っています。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

毎月1回、北野駅周辺と湯殿川の下田橋周辺の清掃をして街の美化に努めました。4月に浅川流域市民フォーラム、都、市、長沼町会と合同で浅川の清掃を計画しましたが、悪天候のため中止となりました。

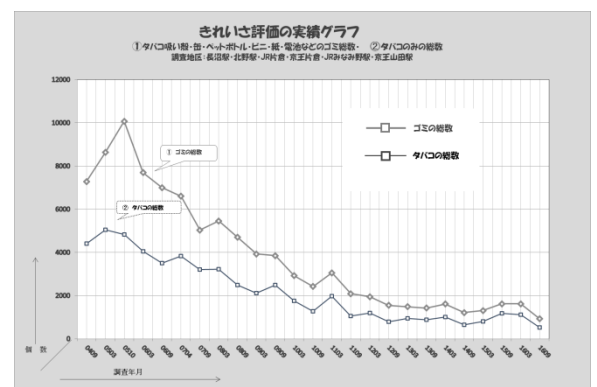
7月には湯殿川の新山王橋周辺、10月には兵衛川のみなみ野大橋周辺の清掃を行いました。公園は森林浴、コミュニケーションづくりなどができる地域の憩いの場であり、景観上からもなくてはならないところです。公園アドプト制度へ参加し、公園を気持ちよく使えるよう、毎月1回大塚山公園の清掃を行いました。

12月には市と北野町会、打越町会との協働により北野駅前で喫煙マナーアップキャンペーンを行い、チラシとティッシュペーパーを配布し、たばこのポイ捨てをしないよう呼びかけました。

年2回、9月と3月に区域内の6駅周辺に落ちているごみを数えています。依然としてたばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、市、町会・自治会、事業者、学校、各種団体、個人ボランティアなどの美化に対する思いが効果を表して、落ちているごみは10年ほど前と比べて約10分の1に減少し、街全体としては年々非常にきれいになっています。



浅川クリーン活動



きれいさ評価の実績グラフ

2 河川の水質状況調査と大気汚染状況調査

6月の全国一斉調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行い、12月には同じ地区で独自の水質調査を行いました。COD値は「きれい」という基準値の1～2のところが多いものの、レジ袋などのプラスチックや缶、ペットボトルなど、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の清掃と啓発活動が続ける必要があります。

大気汚染測定（NO₂）を6月と12月に行いました。16号バイパスが無料化されたことにより車の通行量が増加していますが、汚染状況に大きな変化はありません。今後とも注目していく必要があります。

3 環境フェスティバル、市民センターまつりへの出展

6月の環境フェスティバル、12月の市役所本庁舎の環境パネル展へ出展し、啓発活動を行いました。10月に由井市民センターまつり、11月に北野市民センターまつりと由井市民センターみなみ野分館まつりが開催され、6駅周辺の道路のごみの状況を半年ごとに調査し、「きれいさ評価」としてまとめたものや、河川の水質の状況、大気汚染の状況、東南部地域の散策用に作成したハイキングマップや街路樹マップをパネルで展示し、啓発活動を行いました。来場者からは、「ごみが落ちていないと捨てにくいからきれいになるんだね」と評価していただきました。

4 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

自然体験講座は7月と10月の2回計画しましたが、7月に予定した、川遊びの楽しさや川の中の水生生物の豊かさ、川の水のきれいさを体験できる「イカダで川下りと生き物観察」は悪天候のため中止となりました。

10月の自然体験講座「わが町、北野・打越・長沼周辺寺社巡り」では、北野天満社→天龍寺→八坂神社→八幡神社→梅洞寺→打越弁財天→宝蔵寺→長沼レンガ工場跡のコースを歩きました。寺社のいわれを学習したり、寺社内にあるお地藏様や稲のはぜかけを見学して、のんびりと秋の半日を過ごしました。

かつては田んぼや畑が多く、自然と触れ合う機会がありましたが、近年は宅地化の影響や交通事情から、自然との触れ合いが希薄になっています。

学校では補いきれない部分を野外学習で支援することで、子どもたちを支えています。由井第三小学校では、湯殿川の自然環境、植物、生き物などに触れる環境学習支援を行いました。

8月にはクールセンター八王子で、太陽光を利用し焼き芋を作る「ソーラークッキング」と、風車による風力発電の工作を行い、自然エネルギーの働きを実感する催しを行いました。当日は、太陽光を利用して出来上がった焼き芋を参加者と一緒に試食し、自然エネルギーを小学生に肌で感じてもらいました。



自然体験講座「イカダで川下り」



ソーラークッキング講座の様子

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧・由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特色としてのみどりの景観をそれぞれ形成しています。この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来30年余にわたり、多くの住民の努力によって多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。

今では、別所地区の面積19.8haの「長池公園」、堀之内地区の面積5.2haの「堀之内寺沢里山公園」が整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した、緑地に囲まれた住宅地域になっています。さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された「宮嶽谷戸」のみどりの保全活動も進めています。

■ 東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

長池公園や寺沢里山公園、堀之内沖ノ谷戸公園、堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。長池公園では「長池里山クラブ」が活動主体となり、毎月第2土曜日を中心に、スタッフによる保全活動と活動の事前準備を行っています。30年度の初回は4月に行い、70名近い人が参加しました。主な活動は、4月「炭焼き」、6月「田植え」、10月「稲刈り」、12月「収穫祭」での餅つきで、正月には「どんど焼き」



中山丘陵の植物を観察（秋の自然体験講座 10月）

を行い、2月「炭焼き」、そして3月「椎茸の駒打ち」で年間行事を終了しました。堀之内里山保全地域では、主に堀之内里山管理協議会（「里山農業クラブ」、「ユギ里山保全チーム」、「多摩丘陵の自然を守る会」で構成）が、耕作が放棄されて荒廃した谷戸源頭部のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。

また、多摩丘陵の自然を知ってもらうため、毎年2回「自然体験講座」を開催しており、春は4月に予定しましたが雨天のため中止しました。秋は10月に、中山～鎌水の丘陵方面で樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を実施しました。

2 花壇の維持・管理

南大沢駅前のペDESTリアンデッキに設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。南大沢駅前の花壇管理は、市の道路アドプト活動として、「南大沢みどりのサポーターの会」が主体となり毎月2回実施しており、駅前の企業が新規会員として参加しました。また、活動看板を設置するとともに会員募集を行いました。6月は夏苗の植付けを行い、7月中旬から8月一杯は苗の植え込みと、水やりサポーターの会と毎週交替で「夏の水やり」を実施しました。秋恒例の「南大沢市民センターまつり」には、コンテナガーデンコンテストに参加しました。

3 環境教育支援事業の推進

環境学習支援活動として、地区内の小・中学校で、環境教育の支援を実施しています。由木東小学校では、4年生120名を対象に、6月は浅川・ふれあい橋付近で水生生物の観察、10月は選択テーマによる体験学習を行い、12月に講堂で発表会を行いました。

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染の調査と河川の水質調査は、毎年、関係団体と協働してそれぞれ実施しています。大気汚染の調査は、毎年6月と12月に行われる「大気汚染測定運動東京連絡会」の主催する全都一斉測定に参加し、25か所で実施しました。河川の水質調査は、6月に行われる年1回の「全国一斉水質調査」に、浅川流域市民フォーラムと連携して参加しており、大栗川3か所、大田川2か所、大栗川支流5か所の計10か所で測定しました。（各測定結果は、環境白書データ集に掲載）

5 豊かな自然環境への市民の親しみ向上

西緑地科学クラブとの共催で、4月はたんぼのよもぎパン作り、6月は環境フェスティバルにて子供たちに竹笛作り体験、7月は長池公園自然館で初音笛作り、10月は池のプランクトンの顕微鏡観察、12月は凧づくり、3月は高く飛ぶ竹とんぼづくり等を実施し、自然環境への市民の親しみ向上を図りました。また、由木地区自然観察路、樹木マップに加えて由木地区みどりの道マップを作成し、市民センター祭りの会場等で配布しました。



子どもたちと初音笛作り（長池公園・自然館）

6 市民センターまつりで環境活動のPR

9月に南大沢市民センター、11月に由木中央市民センター、2月に由木東市民センターの3か所で環境活動のパネル展を開催しました。

■ 特色のある取組

東部地区環境市民会議のウェブサイトを開設し、自然観察会などで観察した植物の写真を掲載すると共に、「はちコミねっと」にも会の情報を掲載しています。由木地区自然観察路、樹木マップ、みどりの道の各マップについても上記ウェブサイトに掲載し、これらの地図をスマートフォンなどにダウンロードすることで、野外で自然観察路のルート案内などを利用できるようにしています。



環境活動のパネル展（9月 南大沢市民センター）

また、隔月で学習会を開催し、環境問題の情報共有に役立てています。4月に「八王子・石川日記からみた太陽活動と地球の気候」、5月に「多摩丘陵に生育するタマノホシザクラ ～その分布と現状～」、8月に「食品廃棄物のお話」、9月に「トウキョウサンショウウオの生態」、11月に「みどりの道 街路樹 遊歩道 緑道マップを作成して」、2月に「八王子の河川の水質とCOD市民測定運動」、3月に「古刹永林寺の四季 ～境内を彩る植物たち～/ビデオ」を行い、他の地区の環境市民会議へも聴講を呼びかけました。

地域の行動評価一覧

30年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

ごみ・資源・エネルギー、かわ、まちの各部会とも工夫を凝らして計画された活動、新規に取り組んだ活動などを実施した。各部会とも部会間で相互に会員の協力を得ながら地域の環境保全・改善の活動を推進することができた。

＜環境推進会議での相互評価＞

ごみ分別をクイズ形式で行いリサイクルを啓発する活動、生ごみのたい肥化の推進や、地球温暖化防止のための省エネ生活の推進など、地域の市民生活に合わせた活動を展開している。また、浅川の巡回や、清掃活動とともに川を活かした様々な環境教育への支援を行うなど、多岐にわたる活動を行っていることは高く評価できる。引き続き、活発な活動をすすめていただきたい。

＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

すべての活動に対応できた。特に地域との協働活動の推進には認知度の向上を主眼に進めたい。

＜環境推進会議での相互評価＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、小学生への環境学習の実施や企業や学生の緑地保全活動の支援など、市の魅力のひとつであるみどりを啓発し活用する取組はとても重要であり、環境基本計画の施策とも合致した内容となっている。また、地区内の谷地川での継続的な水質調査に加え、水量調査、生物調査等を行い、河川の保全にも努めている。今後も地域の環境保全活動を行うとともに、地域の魅力あるみどりを市民へ発信していただきたい。

＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

会員数を踏まえると良く取り組んだと思われるが、特定会員だけでなく、みんなでやっへ行こうという事がないと良くならない。

＜環境推進会議での相互評価＞

ダンボールコンポストを活用した学習事業や川の学習などの環境教育支援に積極的に取り組んでいる。また、地域住民に向けた「環境レポート」の定期的な発信や、市の市民部事務所を利用した活動写真のパネル展示などは、地域住民に向けた環境保全活動として高く評価できる。さらに町会・自治会とも連携した活動を拡大していただきたい。

＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

天候による中止を除き、計画通り実施できた。何ら成果のないまま壁にぶつかっていた高尾山周辺案内板設置活動が、地元町会連合会との連携により一歩前進した。連携の強さ、意義を強く感じた。地域、他団体との連携活動をさらに進める。親しみのある水辺環境の構築活動は都（南多摩西部建設事務所）の回答もあり、新たな展開が期待できる。大型商業施設開店に伴う、大量の車による大気汚染の懸念は殆んどないという結果を得た。これは今まで大気汚染測定を続けてきたから判断できるものである。環境学習支援活動は12回行った。支援体制の強化が必要である。

＜環境推進会議での相互評価＞

例年行っているいちょう祭りでのごみ分別指導や高尾山での環境パトロールなど、地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動は、大きな地域貢献となっている。また、環境活動や調査を継続していることにより、地区の環境保全や地元市民の環境意識の向上につながっている。今後も地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を進めていきたい。

＜東南部地区環境市民会議での総括評価＞

計画した活動は実施できた。近隣町会と連携した活動もできた。

＜環境推進会議での相互評価＞

東南部地区内6駅周辺のごみの量によるきれいさ評価や、町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーン、駅周辺や川の清掃活動を継続して実施しており、データからもきれいなまちづくりへの効果が表れていることは高く評価できる。こうした地域と連携した清掃活動を行うことで多くの市民への意識啓発につなげていきたい。

＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

ほぼ計画とおりに実施できた。地域との連携した活動を心がけている。駅周辺や河川の清掃をしていると挨拶をしてくれる人がいる。すこしずつ輪を広げていくことが必要。

＜環境推進会議での相互評価＞

長池公園や堀之内寺沢里山公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理など、地域の様々な団体と連携して活動しており、良好な環境づくりへの貢献度は高い。インターネットを活用した活動の発信や、自然観察路マップや樹木マップの公開など、広く市民に向けた情報発信に取り組んでいる。引き続き活発な活動をすすめていきたい。

第2節 環境保全団体の活動紹介

■みなみ野自然塾

1 概要

みなみ野自然塾は、平成9年に環境共生都市「みなみ野シティ」の街開きと同時に、地元の方々と都市基盤整備公団によって立ち上げられ、14年に市民団体として独立し現在に至っています。会員は毎年150名程度で、楽しむことを第一に、米作りを基軸として雑木林の手入れ、野菜作り、ハーブ畑、動植物の保全・観察などを行います。栃谷戸公園と宇津貫緑地で活動し、八王子市公園アドプト制度の下、田圃・



20周年 人文字

畑・雑木林の三位一体の活動を展開し、里山文化の継承と新たな発展、街づくりなどに取り組んでいます。街の長老である橋山春男さんから、技と文化を伝授していただいています。14年に「緑の都市賞」内閣総理大臣賞を都市基盤整備公団と共同受賞しました。

2 30年度の主な活動実績

(1) 栃谷戸公園での活動について

田圃、段々畑、雑木林、池、ひろばが揃っている公園で、みなみ野小学校の児童達と連携し活動しています。

また、サツマイモ堀り、田植えなどを市民に公開したほか、近年は市と協働して萌芽更新にも取り組み始めました。

これらの活動を行うことにより、鳥や昆虫、4つ足の動物なども公園に登場するようになり、その光景は市民の憩いの場にもなっています。さらに、みなみ野小学校の卒業生は、ここでの活動が街で暮らす「原体験」となり、新たな「ふるさと」の地としても位置づいています。



田植え

(2) 宇津貫緑地での活動について

宇津貫緑地のホタル沢に棚田・雑木林・水路を再生することや、生物調査・生態系の調査など、地道な活動に取り組んできました。ホタルを指標生物のひとつとし、人と自然が穏やかに調和する里山を現代社会に再生するとともに、里山の新たな社会的価値を探求しています。藁でお正月飾りを作ったり、サツマイモの蔓やハーブでクリスマスリースを作ったり、わらべ歌、絵本、葉っぱの絵、絵手紙、燻製など、伝統行事・文化的活動にも取り組んできました。

里山の再生は、失敗すると土地の中に眠っている植物の種など、その地のものを全滅させてしまうことにもなりかねません。そこで、慎重に、学習・研究活動も積んでいます。夏には地元の自治会や幼稚園、学校関係者向けにホタル観察会を開催しました。延べ500人ほどが参加し、みなみ野の夏の風物詩となっています。外来種が入り込んでいない貴重な里山であり、生物の多様性の息吹を感じるようになりました。

■首都圏建設産業ユニオン多摩支部

1 概要

主に市内の建設従事者が所属する建設労働組合です。地域住民の衣食住の「住」を担う者として、市民が「安心・安全に暮らせるまちづくり」に向けて取り組んでいます。

新築や耐震改修、増改築など、住宅の「地産地消（＝地元の木と職人による住宅づくり）」を目指しています。東京の木である多摩産材の利活用を進めることで、多摩の森林の適切な手入れにつなげ、地球温暖化防止に努めています。

環境イベント等にも積極的に参加し、丸太切り体験など、楽しみながら木に触れる企画を通して子ども達への環境教育に取り組んでいます。



事務所内装にも多摩産材を使用

2 30年度の主な活動実績

(1) 環境教育

八王子環境フェスティバルに参加し、子ども達の丸太切り体験、恩方地区の間伐材で作成したコースターや多摩産材木製マグネットの配布を行いました（丸太切り参加者324名）。



子ども達が木と触れ合う

木工教室では、親子合わせて約120名が参加し、多摩の木材を使った巣箱や飾り椅子など、全6種の木製製品を作成しました。

森林は「植える→育てる→収穫する」のサイクルができて、はじめて本来の役割を発揮します。そこで、子ども達には地球温暖化防止などの、森林の果たす役割への理解と木材の利用を呼びかけています。

(2) 森林保全活動

多摩の森林保全活動として、恩方地区の間伐作業や山林の下草刈りを行っています。



山林での下草刈り

(3) 環境保全活動

八王子まつりでのゴミの分別回収や、浅川沿いのゴミ拾いなど、友好団体と協力しながら市内の環境保全ボランティア活動に取り組みました。



八王子まつりや浅川沿いでの清掃活動